

非核の政府を求める石川の会 会報

# 非核・いしかわ

二〇一三年原水爆禁止国民平和行進

## 平和の願いを一步、一步に込めて

—— 県内通し行進を終えて ——

末友 雅子



原爆碑「平和の子ら像」前で記念撮影、写真右から県内通し行進者の神田順一さん、末友雅子さん

(6月16日、金沢市卯辰山玉兎ヶ丘)

事務局  
〒920-0848  
金沢市京町 28-8  
石川民医連労働組合気付  
Tel 076-251-0014  
郵便振替  
00760-0-15689

### 非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

中学生の時、学校の図書館で「私たちは長崎にいた」という体験記を読み、「なぜ大人たちは戦争、原爆投下を止められなかったのだろう。今を生きている自分たちには、戦争を起こさせない責任がある」と思い、その思いが私の人生の柱となりました。

学生時代、平和行進に仲間と参加しました。寮の部屋を回って話をし、原水爆禁止世界大会のバッヂを売ったりカンパをお願いしたりして広島、長崎へ。ただし、大会の中身はほとんど記憶がなく、広島、原爆老人ホームで「良くしてもらって感謝していません」という被爆者の言葉に「被爆体験をさせられて感謝？」と考え込んでしまったこと、長崎では大会参加前に永井隆記念館へ行き、宿無し娘三人で管理人さんのアパートに転がり込んで泊まったこと、宿舎で県代表団みんなと超大皿の皿うどんをつつき感動したことなど、今となっては、若気の至りや意識の低さにちよつと恥ずかしい記憶です。

あれから四〇年。社会人になってからも、自分なりに出来ることを…と思ひ、平和行進の「二歩でも、二歩でも一緒に歩きませんか」というフレーズに励まされ、忙しくても参加するようにしてきました。そんな中でいつからか「退職後は通し行進で歩きたい」と思うようになっていました。いざ退職してみ

### 花鳥風月

言葉とは何か。その正しい有り様とは何か。アーサー・ビナードさんの講演で、今更ながらその大切さに気付かされた▼ビナードさんは英語が母国語なのに、日本人以上に日本語を正しく使いこなしていることに驚嘆する。そして敬意を表さずにはいられなくなる▼それは修辞学が単に上手ということではなく、日本語の素晴らしさに気づかせ、同時にその危うさに警鐘を鳴らしているその人が、日本語を母国語にしていな方だからだ。母国語にしている人間として気恥ずかしくなる▼講演では、人は言葉というレンズを通して物事を理解するけれども、意味を正しく捉えて使用しないと、歪曲され誤魔化されても、また人間として立つ位置を誤っても、気づかなくなりがちだ。同じ現象を見ても解釈が真逆になることだってある。言葉によって思い込みが無数に生まれ、それによって本質が見えなくさせられている。言葉を自分のものに取り戻すことなくして、自分自身を回復・解放させることはできない、と説いた▼気の遠くなるような努力がいるが、横着をして良いことは何もない。今号から掲載される講演要旨をご覧あれ。(ま)

ると、この脚力で歩けるのかと心許ない状況でしたが、「いつやるの?」「今でしょ」と思い切りました。

### 通し行進でわかったこと

県内一〇〇キロ余りを歩いて、毎日地域の方が一緒、行く先々で賛同の合図、声かけをしてくださる方、自治体での受け入れ、様々な形で毎日の行進を支えている方々など、通し行進でこそ知ることができました。また、富山から広島まで歩く竹田昭彦さんは戦争遺児としての思いを語り、県内通し行進の神田順一さんは、「非核の政府を求める会」の事務局長でもあり、これまでも組織活動に関わってこられて、自治体への要請事項を持って大きな視野で発言されてきました。そして私は：「教え子を再び戦争に送らない」という決意をした教育現場で、子どもたちと平和について学んできた者として、またわが子、孫たちを思いつつ語りました。そんな風にならな日本中でいろんな立場の人が、それぞれの思いで平和行進に加わり、文字通り「大行進」になればいいなと思います。

福井との引き継ぎ式で挨拶をされたあわら市議会の副議長さんは被爆二世として、父親が語ろうとしなかつた過酷な体験を思い、行進団に熱いメッセージを寄せられました。このことも大きな体験として残っています。歩いている途中、「人間ってその気になれば歩けるものなんだね」と言いつつ、この一〇〇年の社会の発達から未来の話になり、「この先一〇〇年後もまだ、平和行進歩いているのかなあ」という話になって笑いました。でも、笑い事でなく、いつかこの行進がいらぬ時代が来てほしいと思います。

### それぞれの持ち味を生かして

今回の行進で見えたことの一つに「持ち味を生かした活動」ということがありました。広島までの通し行進者の竹田昭彦さんは、毎日行く先々での出来事、見たこと知ったことを写真と共に発信されていてとても勉強になります。車や修理に詳しい人、困ったことを解決する人脈の多い人、はつきり親しみのある明るい街宣をする人、事前に各自治体を訪問して行進の目的をしっかりとレクチャーする人、自治体と参加者をつないでくれる人（議員さん）、「平和行進が趣味」と言い切り毎年県内外を歩いている人、それぞれにすごいと思いました。

「子どもたちへの最大の贈り物は、核のない平和な世界」これからも私なりに、できることをできる形でやっていきたいと思います。



今年新装された小松市の懸垂幕の前にて、  
全国コース通し行進者の竹田昭彦さん

(六月二二日、小松市役所)

### 核兵器廃絶を訴えて

### 「県内通し行進」に挑戦

神田 順一

石川県での平和行進は、六月九日（輪島市、能登町、珠洲市）から一四日（内灘町）までの能登コースと、一五日（津幡町）から二四日（加賀市）までの富山―広島コースです。

私は六月一二日（宝達志水町、羽咋市）から行進を開始し、一五日（倶利伽羅峠）で富山県から富山―広島コースの横断幕を引き継ぎ、二四日（吉崎御坊）で福井県に引き継ぐ「県内通し行進」を無事達成できました。

### 全国の通し行進者が毎日ブログを更新中

一緒に歩いた富山―広島コース通し行進者の竹田昭彦さんは、引き続き福井県―京都府―兵庫県―鳥取県―島根県を行進し、八月四日、広島平和記念公園に到着予定です。

インターネットで「平和行進 竹田昭彦日誌」を検索してみてください。竹田さんは毎日ブログを更新されており、平和行進の様子がよくわかります。

### 各自治体に平和事業推進を要望

私は県内自治体の平和事業との関わりで平和行進について報告します。

平和行進石川県実行委員会では五月一三日から一六日まで、県内すべての自治体の首長（秘書課又は総務課）、議長（議会事務局）を訪問し、平和行進時の庁舎前使用と平和行進ペナント、メッセージ



の依頼、被爆者援護・連帯のペットボトル募金等について協力要請しました。その際、非核石川の会の自治体アンケート結果にもとづき、平和市長会議への加盟（現在県内では九自治体が加盟）、被爆の実相を継承するため「原爆写真パネル展」の開催、広島島の平和祈念式典への参加、「非核平和宣言塔」の建立等を要望しました。

また庁舎前で自治体職員が参加して平和行進の出発集会や歓迎集会が開かれた時には、平和市長会議への加盟や「原爆写真パネル展」の開催等の平和事業の推進を繰り返し訴えてきました。

### 核兵器廃絶の運動を地域から

県内すべての自治体から首長、議長の平和行進ペナントやメッセージ、ペットボトル募金等を受け取りながらの行進であり、先達たちの長年の実績を知ることができました。

多くの自治体では総務部長や総務課長が首長らのメッセージを代読されていましたが、中能都町や野々市市では首長と議長が揃って出発式に参加され、激励の挨拶をいただき、大変励みになりました。野々市市長は八月上旬に広島で開かれる平和市長会議第八回総会にも出席されるとのことでした。

今年から各自治体に依頼した平和市長会議の「二〇二〇年までの核兵器廃絶を目指して『核兵器禁止条約』の交渉開始等を求める要請書」にも多くの自治体職員から賛同署名が寄せられました。

核兵器廃絶の運動を地域から、地球規模で思考し、足元から行動を起こしましょう。

### Think Globally Act Locally



平和行進のリレー横断幕を福井県参加者に無事引き継ぐ（6月24日、福井県あわら市吉崎御坊）

### 今年も全ての自治体を行進しました

内藤晴一郎

今年の原水爆禁止国民平和大行進は六月九日観光客で賑わう輪島の朝市通りから始まりました。

一四日(金)まで能登の全市町を行進し、一五日(土)富山県行進団から日本海コースの行進横断幕やリレー旗を受け継ぎました。反核・平和マラソンも到着し石川のチームと交流し先に走り出して行く。津幡町庁舎では土曜日でしたが、副町長さんはじめ十二人の職員さんに迎えていただきました。

一九日(月)、仕事を終えて集まった参加者は約三〇〇人。金沢市役所前の出発集会はうたごえの人たちと「青い空は」「折り鶴」などを歌い、浴衣姿の参加者などもあり、和やかな集会和行進になりました。

一九日(水)は強風と大雨注意報が出ている中、白山市役所から川北町役場までずぶ濡れになって行進。ずぶ濡れで恐縮している行進団を応接室に迎えていただき温かいお茶の接待がありました。副町長さんの激励と親しく懇談ができました。

二〇日(木)、能美市役所の出発集会は四〇人の職員が参加、激励と見送りをいただいて出発。行進中道路に膝まずき署名いただき感激しました。

二二日(土)、小松市は実行委員会のアナウンサーが付き、自前のアピールアナウンスとシユプレヒコーをしながら元気に行進。小休憩の多太神社では今年も氷室饅頭の差し入れがあり元気が出しました。二四日(月)、福井県吉崎町で福井県行進団に横断幕を引き継ぎました。

### (今年のまとめ)

- ① 全自治体を行進。地元の人たちや実行委員会の準備とご協力のお陰です。
- ② 殆どの自治体からペナント、メッセージ、激励のご挨拶をいただきました。市長・町長・議長さんはじめ多くの自治体職員が歓送迎集會に参加いただきました。
- ③ 各地の実行委員会は、コースの選定、参加呼びかけ、平和の花紫金草の種、ティッシュペーパー、風船などを配り、手作りうちわ、横断幕、のぼり旗の他、ぬいぐるみ、うたごえなど視聴に訴える演出もありました。
- ④ 行進者へ沿道の人が手を振って応え、募金・署名・折り鶴などを届けてくださる姿が各地でありました。これは各地の実行委員会の事前の準備がありました。

⑤ 平和集会を城北病院、寺井病院、卯辰山平和の子ら像前の三か所で開催しました。

⑥ 行進参加者は延べ九二五人、自治体職員二二六人、平和集会一九五人、計二二四六人でした。全国通し行進者竹田昭彦さんと、県内通し行進者の神田順一さんが一二日から二四日まで、末友雅子さんが一五日から二四日まで元氣に行進団の先頭で歩かれました。

⑦ 各市町自治体の集めた住民署名は一七七七筆、行進中五か所の署名行動で三二六筆、合計二二〇五筆です。自治体で集めていただいた被爆者援護・連帯募金は一六四、七六一円、署名募金は三、七〇二円でした。

⑧ 首長・議長の「核兵器全面禁止のアピール」署名は、酒井悌次郎能美市長、川口克則内灘町長、上野良夫珠洲市議会議長、小坂孝純穴水町議会議長、杉本忠一七尾市議会議長、竹内幹雄かほく市議会議長、能美市議会議長、林俊昭加賀市議会議長、宮田勝三能登町議会議長から新たに署名をいただきました。これまでの署名と併せますと二九人の市長・町長、議長、議員が署名されています。

⑨ 北陸朝日放送。北国新聞、北陸中日新聞、しんぶん赤旗の取材と報道が有りました。

⑩ 実行委員会参加の県労連、民主商工会、民医連、新婦人の会、年金者組合、各地の九条の会、平和委員会、非核石川の会のご協力に感謝いたします。

県内行進距離は約一二〇kmでした。

(原水爆禁止石川県協議会事務局長)

#### 第四回核兵器廃絶国際行動デー

講演要旨「炉は続くよ どこまでも？」(上)

講師：アーサー・ピナード

「はだしのゲン」の中沢啓治さんの遊び場が現在、原爆ドームとして世界遺産に登録されていますが、その正式名称は「広島平和記念碑」といいます。私はそこから五百メートル離れたところに生活しています。中沢さんが被爆後に入った本川小学校からも近いところです。「原爆ドーム」という言葉がずっと気になっています。私は二七歳の時に初めて広島に行きました。その時は「原爆ドーム」という言葉に疑問は湧かなかったのです。そして自分とドームが繋がっていることが分かってきました。でも広島に住む少し前から、広島で起きたことを表す言葉として、そしてそれを語り継いでいる言葉として本当に相応しいのか、疑問を持つようになりました。

「原爆ドーム」は誰が名づけたのか不明です。「東京ドーム」と同列となると腹立たしい感じがします。シックリこないと思っていました。

ある時、横浜の米国の知人が開いた日本語学習会で「ボラ」の話が出てきたのですが、私は「これボラといっているの？」と疑問が湧いたのです。スズキ目ボラ科の魚ですが、誕生した時は「ハク」、「オボコ」、「スバシリ」、「イナ」、三〇cmを超えて初めて「ボラ」となります。そしてそれは終わりではなく、「トド」になります。日本語の「とどのつまり」は、日本語の中で育った人はセイウチのような動物と勘違いされている人も多いですが、ボラの立派なものが「大ボラ」なのです(笑)。

「原爆ドーム」を見上げて星空を見上げているとふと気づいたのです。「原爆ドーム」は出世魚ならぬ出世建築物なのだ。一九四五年八月六日の時点で誰もそう呼んでいない。あれはチェコ人のヤン・レツェルという人が設計して一九一五年に竣工し「広島県物産陳列館」、そして「広島県商品陳列所」、一九三三年に「広島県産業奨励館」、一九四四年に「内務省中国四国土木事務所」等となり、被爆後いつしか「原爆ドーム」となり、世界遺産登録にあたり「広島平和記念碑」となりました。

これら百年の歴史を振り返ると、ネーミングがしつくりこない理由があぶりだされるように思いますが、「原爆ドーム」という言い方はこれからもっと進化してさらに新しい名前を得る必要があると思われのです。

つまり市民が核分裂という犯罪に終止符を打って、核兵器と核燃料を廃絶して原爆と原発・水爆を



320人の聴衆を魅了した講師のアーサー・ピナードさん  
(6月9日、金沢市文化ホール)

お払い箱にして初めて、「原爆ドーム」の曲がった鉄の骨組みのあの廃墟が本当の意義を伝えることになる、と思うからです。そこできつと新しい名称が生まれる筈だからです。

核燃料が使われず輸出入されないという時代になって初めて、最後の名前、未来につながる名前が見えてくると思うのです。そしてもしそれを私たちが成し遂げることができなかつたら、「原爆ドーム」にも私たちに、未来はないのだと思います。

私たちは「どこのつまり」ならぬ「絶滅のつまり」で終わりたくないのです。私は生き残りたいのです。中沢さんも「百まで生きたい」と仰っていました。私たちもやるべきことは沢山あるのです。でもそのためには、現在の状態がいかに未完成でどうしようもなく、いかにいろんな意味で穴だらけなのです。そこをしっかりと踏まえていかななくてはならないと思うのです。(次号につづく)

(文責 編集部)

#### ◇石川県保険医協会講演会・要録◇

### メディアが報道しない福島の実情

#### 原発震災後の行政対応と「脱被ばく」の課題

講師：荒木田 岳

七月七日(日)午後二時から原発・いのち・みらいシリーズ講演会(第七回)を近江町交流プラザにおいて開催し、医療関係者と市民を合わせて約九〇人が参加し、会場は終始熱気に包まれていた。

講師の荒木田岳氏は金沢市の出身で、修士課程を

新潟大学で過ごされたが、その時、新潟県巻町で起こった原発建設反対の住民運動に期せずして参加するようになったそうである。荒木田氏の行くところ全てに原発があり、彼が今こうして奔走しているのは何かしら運命のようなものかもしれない。

荒木田氏の一番の主張は、「脱原発」ではなく「脱被ばく」である。しかも、「みんなの脱被ばく」である。福島で起こっていることは、多くの人々が被ばくしながら現地に留め置かれている状況である。県外に自主避難した人々には、「福島は安全なのに、なぜ避難するのか」といった悪意に満ちた非難が浴びせられ、福島に残っている人々に「住むのは危険だ」と意見するのは「福島に住むものを傷つける無神経な発言」と批判される。そうやって、人々が分断されているのである。また、脱原発を訴える人々の中で、「除染すれば大丈夫」と言う人もあれば、「除染が必要なくらい住むには危険」という人もあり、結局「脱原発」ではまとまることは難しい。

行政の対応は、矛盾に溢れている。例えば、「モニタリングポスト」。福島県の原子力センターは地上八m(二階建て建物屋上)で空間線量を測定している。しかし、福島県農業総合センターが重要な指摘を行った。汚染されていない切干大根を地表近くに置くと三〇〇〇ベクレル/kgになり、地表近くに置いたほど汚染が激しかった。公表されている空間線量とは相関がなく、結局、空中に舞っている塵が危ないことに荒木田氏が気付き、福島県の原子力センターに地上近くでも計測するよう電話で二度も要望したが何の回答もない。最近密かに地表近くで測定しているが公表をしていない。つまり、公

表されている空間線量は全くあてにならないのだ。また、国は食品の安全基準を一時五〇〇ベクレル/kg以下と定めたが、荒木田氏自身が原発事故前の食品の残留放射線量を文科省環境放射線モニタリングデータベースで調べたところ(過去五〇年分)、一度だけ一ベクレル/kgを示したことがあつただけであつた。五〇〇ベクレル以下という数字には安全という確証はないのである。柏崎刈羽原発では、一〇〇ベクレル/kg以上はドラム缶に入れて管理する「放射性廃棄物」としている(朝日新聞、二〇一二年四月二〇日)と報道されている。また、福島では「オール福島でがんばろう」とか、「食べて応援しよう」と盛んに言われている。福島県相馬市で事故後はじめて水揚げされたズワイガニ、これは北陸地方へ出荷されている。福島県三春町の学校給食用のネギを福島県外産と偽って納入した事件もあつたが、産地の偽装問題もどこまで拡がっているのかわからない。これまでは売れ残っていた福島農産物が、今は在庫が一掃されてしまった。いったい、どこへいったのだろうか。

つまり、事はもう福島の問題だけではないのである。荒木田先生は問いかける。あなたはどちらの立場ですか?と。「食べて応援」か「みんなの脱被ばく」か。「食べて応援」が意味するのは、放射能の被ばくにあつているのは福島に住む人、それは他人の事であるということ。「福島で起こっていることを、私のこととして考えてほしい」と荒木田氏は結んだ。

(文責 斉藤典才・石川県保険医協会理事)

## 非核石川の会 リレーエッセイ

## ミュージカル「はだしのゲン」

江口 耕平

金沢市民劇場は、「より多くの人とすぐれた演劇を観ることを通して、自らを豊かにし、日本演劇の民主的発展をめざす」を掲げなら演劇文化の普及向上に努めています。アクチャルで心を耕してくれる年間六回の演劇鑑賞例会をもっていますが、今回、中沢啓治さんの原作を木山事務所がミュージカルにした「はだしのゲン」を九月二三日と二四日に例会に迎えます。

中沢さんは、「人類にとって最大の敵は、戦争と核兵器です。その敵に負けないために、必死に元気の元(ゲン)、元素の元(ゲン)は、人間の尊厳をかけて立ち向かっていきます。ゲンとその家族の生き方を通して、平和を希求する舞台劇『はだしのゲン』は一九六六年に木山事務所が熱い思いを込めて完成しました。(略)一人でも多くの人にご覧いただき日本の津々浦々に、そして世界の各地の核廃絶の輪がさらに大きく拡がって行くことを願っています。」

## 故・清水正明氏「原爆・被爆の絵画展」

「案内

日時 八月六日(火)～一六日(金)

午前九時～午後五時

会場 輪島市文化会館二階展示室

主催 輪島市・輪島市教育委員会

と一文が寄せられています。その中沢さんは、昨年一二月に、制作された木山潔さんも今年一月に亡くなられ、追悼公演の思いも持って準備しています。被爆から六八年。遠い昔の話では、ありません。“ヒバクシャ”という実相は、三・一一にもつながり、ますますゲンの生き方に学ばねばと思わずにはいられません。

芝居を観ることは不思議な行為です。暗闇の中じつと座ってウソの舞台を観ている。だけど、身じろぎしない体の中では、登場人物の喜びや悲しみを、俳優の呼吸とあわせて、みんなと一緒に体験しています。その体験は、劇場で展開されるドラマは非現実なものだからこそ、現実的利害関係からも解きはなたれ、共鳴する心の動きとなり感動という言葉になつたりします。だからこそ、めまぐるしく変わる今日にあつて、ある時間、解放されたお互いが一緒に心の共鳴を作り出す場、心をリフレッシュする場が、ますます必要性が増して来ていると思えたりします。

忙しさに足をとめて、劇場に、踏み入れると新しい世界が見つかる……。

## 深井一郎さん

六月二一日八八歳で亡くなりました。

一九八八年非核の政府を求める石川の会設立時から常任世話人としてご活躍され、一九九六年県内全自治体の非核・平和都市宣言達成など核廃絶運動にご尽力いただきました。反戦川柳作家鶴彬研究家、金沢大学名誉教授。ご冥福をお祈りいたします。

## 二〇一三年原水爆禁止世界大会に

## 神田順一事務局を代表派遣決定！

— 派遣費用の募金のお願い —

広島・長崎へ向けて平和行進は今どこを

石川県から福井、京都、兵庫、鳥取の各府県へ継ぎ、本紙が発行される七月二〇日頃は島根県内を行進中でしょうか。

## 自治体職員のみなさんに感謝

非核石川の会の行動目標「自治体と一緒に」の思いは、事前の自治体訪問、行進中の自治体訪問など前号と今号の報告から伝わってくるでしょうか。

暖かく歓迎して下さいました各自治体職員のみなさんに感謝申し上げます。

## 二〇一三年の世界大会は長崎で開催

今年の原水爆禁止世界大会は世界と全国の代表が八月七日から九日まで三日間長崎に集います。

国連や政府代表、住民運動の代表などの発言、全国原爆展、平和行進、署名、原発廃炉など豊かな地域ぐるみの運動の経験交流が繰り広げられます。石川県から四〇人の代表団を目標に取り組みがされています。

## 派遣費用の募金協力をお願いします

非核石川の会は神田順一事務局を代表派遣することを決定しました。派遣費用は約十一万円が必要ですが、誠に恐縮ですが、代表派遣費用の募金のご協力をお願い申し上げます。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会



詩人会議かなざわ「独標」より

どいね!

どいね!原発

どいね!大飯

どいね!大間

どいね!志賀

二〇一二年七月六日から どいね!

毎週 どいね!

こどもと一緒に どいね!

職場の仲間と一緒に どいね!

みんなと一緒に どいね!

思いを束ねて どいね!

山口修治



原発ゼロを訴えて全国行脚するゼロノミクマが石川県にも登場=7月7日、近江町いちば館

年末も どいね!  
年明けから どいね!  
なんとしても どいね!

まだまだ どいね!  
ゼロまで どいね!

どいね! 原発!

和定例会会報より

宿題「見栄」

前抜

前田大峰 選

見栄総理原発抱えて海外へ

和子

見栄総理増税してまで投資する

和子

アベノミクス リスクは言わぬ見栄っぱり

一杜

安全と見栄を切った原発日本

茂明

佳作

水ぶくれの顔を撮らせる見栄っぱり

一杜

偉大なる宰相ぶつてる見栄っぱり

林

ODA中国に対抗見栄を張る

啓

人位

尖閣は安保の域と見栄張る

啓

地位

見栄っぱり軍服を着て乗る戦車

茂明

天位

できもせぬ基地の移設で見栄を張る

林

軸

馬の足原発担いで見栄を切る

《非核平和・行事予定》

・七月二四日(水)一八時半: 原水爆禁止世界大会学習と結団式・勤医協会館三階ホール

・七月二七日(土)一四時: 中国名画鑑賞会「白毛女」近江町交流プラザ研修室二・主催日中友好協会石川県支部準備会

・七月二八日(日)一〇時〜一二時半: 反核・平和おりづる市民のつどい・金沢市卯辰山「平和の子ら像」前広場・主催同実行委員会

・七月二八日(日)一八時: 金沢市民劇場例会・劇団民芸「どろんどろん」裏版四谷怪談・野々市フオルテ

・七月二九日(月)一八時半: 原発なくす石川県連絡会代表者・呼びかけ人会議・ドキュメンタリーテレビ「珠洲原発をとめた人たちの記録」鑑賞・その後打ち合わせ会・近江町交流プラザ

・七月二九日(月)一三時四〇分: 小松爆音訴訟公判・金沢地裁

・七月三〇日(火)一四時半: 金沢市民劇場例会・右二八日参照・金沢市文化ホール

・八月一日(水)一八時半: 市民に開かれた憲法講座「憲法と社会保障」寺越博之石川県社会保障推進協議会事務局長・平和と労働会館一階・主催石川憲法会議

・八月三日(土)九日(金): 二〇一三年原水爆禁止世界大会・県代表団は七日〜九日長崎大会に参加

・八月四日(日)一〇時〜一六時: 第五回石川医療・介護研究集会・体験型学習講演会「よりそう介護と道具の関係―生活づくりとしてのシーティング」講師・光野有次シーティングエンジニア/でく工房・県青少年総合研修センター・主催: 同実行委員会

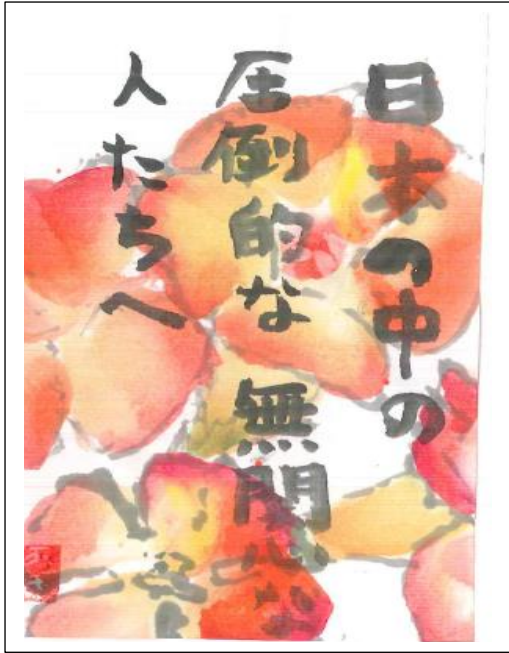
- ・八月五日(月)～一六日(木)：「原爆と人間展」石川県庁一九階展望ロビー・主催反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会
- ・八月六日(火)一二時半：6・9行動署名・Mザ前
- ・八月一〇日(土)二三時半：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟県本部総会と記念講演「憲法改悪の動きと国賠同盟の役割」講師増本一彦弁護士／同盟本部副会長・金沢勤労者プラザ
- ・八月二四日(土)～二五日(日)：日本母親大会・記念講演「憲法の息づく国に」伊藤真弁護士／伊藤塾塾長・東京&千葉

## 絵手紙コーナー

新婦人もみじ班 川端晶子

コメント

「ヒロシマ・ナガサキ・フクシマとこれだけ被爆させられてなぜきつぱり止められないのか」



- ・八月二九日(木)一八時半：原水爆禁止世界大会報告会・勤医協会館三階ホール
- ・九月九日(月)一二時半：6・9行動署名・Mザ前
- ・九月一四日(土)二三時半：第一五回鶴彬をたたえる集い・かほく市高松町高松歴史公園
- ・九月一五日(日)一〇時：鶴彬資料展・高松文化センター・高松歴史街道フェスティバル実行委員会
- ・九月二一日(土)二時～一七時：二〇一三年いしかわピース9フェスティバル・野々市フォルテ・参加費一五〇〇円・主催同実行委員会
- ・九月二三日(月)休一四時半：金沢市民劇場例会・木山事務所「ミュージカル・はだしのゲン」金沢歌劇座
- ・九月二四日(月)一九時：金沢市民劇場例会・同右・野々市フォルテ

- ・九月二八日(土)一四時：県民が主人公の県政実現をめざす県民集会・講演／石川康宏神戸女学院大学教授・憲法が輝く兵庫県政をつくる会代表幹事・労済会館ホール・主催新しい県政をつくる県民の会
- ・九月二九日(日)一〇時半～一六時半：九条の会北陸ブロック三県交流会・記念講演／小澤隆一東京慈恵医大教授／九条の会事務局・金沢勤労者プラザ
- ・一〇月二六日(土)一五時：叻昭三業績集出版記念講演会・祝賀会・金沢スカイホテル
- ・一一月九日(土)二三時半：「原発再稼働反対・志賀原発廃炉・福島被災者支援県民大集会」・志賀町文化ホール・主催実行委員会(予定)
- ・一一月一五日(金)～一七日(日)：二〇一三年日本平和大会 会址 岩国

## 《編集室より》

◎今号が読者に到着する頃、参議院選挙の結果が出ていることだろう。明確に非核を求める議員はどれくらい増えたのだろうか。それにしてもアーサー・ピナードさんの講演にもあったが、マスメディアのデタラメ報道はひどいものだ。選挙が近づくと「アベコペノミクス」を天まで持ち上げ、「アベノミクス効果で年金運用益が過去最高」だの、「ネジレ解消が選挙の焦点」だの、「領空・領海侵犯」などの報道が、半ば意図的に流される。原発再稼働・原発輸出や消費税増税や憲法九条改変やTPP推進や賃上げ・安定雇用などには触れたがらない。その殆どは権力志向色を帯び、政権に迎合傾向のあるものだ。批判的な立場からの報道はわざと後景化させられる。そのなかで惑わされずに投票していくことこそ、真の人としての証しなのではなかるうか。大震災と原発事故を契機に潮目が変わり、非核の世界に思いを馳せる人々が、互いに手を携えて未来を展望できる選挙結果であってほしい。(ま)

◎今夏、漫画「はだしのゲン」四〇周年を迎えて、県内でもゲンの生き方を次の世代に伝える活動が目白押しである。「石川反核医師の会が能美市、輪島市の小中学校への寄贈を計画」「七月二八日、反核・平和おりづる市民のつどいで、のまりんが紙芝居『はだしのゲン』を上演」「八月五日～一六日、県庁展望ロビーの『原爆と人間展』にて紙芝居の絵と文を展示」「九月二三日及び二四日、金沢市民劇場がミュージカル・はだしのゲンを上演」等々。(か)